

検査結果判定の見方  
検査項目別解説

## 検査項目別解説 INDEX

検査項目	ページ番号	検査項目	ページ番号
身体計測	3	肺機能	8
血圧	3	眼底	9
聴力	3	心臓	9
視力・眼圧	3	胸部	9
血液一般	4	胃部	9
白血球像	4	腹部超音波	10
肝・胆・脾	5	脳・頸動脈	10
糖代謝	6	レディース	10
脂質	6	前立腺	11
尿酸	6	甲状腺	11
腎機能	7	大腸	11
尿	7	アレルギー	11
便	8	腫瘍マーカー	11
血清免疫	8	その他	12
感染症	8		

## 検査項目の内容

### 身体計測

標準体重	標準体重とは、統計的に最も健康的で病気になりにくいとされる体重のことです。 計算式：標準体重 (kg) = (身長 (m)) × (身長 (m)) × 22
BMI	BMI（体格指数）とは、Body Mass Index の略であり、肥満の度合いをチェックします。 計算式：BMI = 体重 (kg) / 身長 (m) の二乗 から求められ、標準値は 22 です。 日本では一般的に、BMI 25 以上を「肥満」、18.5 未満を「痩せ気味」と判定します。
腹囲	メタボリックシンドロームの判定の一項目として実施しています。 臍（へそ）の高さの腹囲を測定し、男性 85cm 以上、女性 90cm 以上で、かつ血圧・脂質・血糖の検査項目で 3 つのうち 2 つ以上が基準値から外れると、「メタボリックシンドローム」と診断されます。

### 血圧

血圧	血圧とは、心臓から血液を全身に送り出す圧力（心拍出量）と血管の流れにくさ（血管の抵抗）によって決まります。 血圧が高いと、動脈硬化の原因となり、脳血管障害、大動脈瘤、心疾患、腎疾患などの病気になる危険性が高くなります。 血圧が低い場合は、頭痛やめまい、動悸、息切れといった症状が現れます。 血圧の値は、緊張や疲労、ストレス、生活環境により常に変動します。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 聴力検査

聴力	聴力検査では、1000Hz と 4000Hz の 2 つの周波数を検査しています。 これは日常生活で多く聴こえる低音域と高音域の周波数で、平均的な大きさ（デシベル）を測定しています。 1000Hz = 40db (医学適性は 30db) 4000Hz = 40db
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 視力・眼圧検査

視力	裸眼もしくはめがねやコンタクトレンズをつけて、遠くの見え方を測定しています。 運転免許の取得条件は両眼で 0.7 以上です。裸眼の視力が 0.3 以下の場合は、日常生活において支障をきたしやすいため、矯正（めがねやコンタクトなど）をお勧めします。
眼圧	眼球内を満たしている眼内液の圧力を測る検査です。眼圧が高いと「高眼圧症」となります。 高眼圧 = 緑内障というわけではありません。正常眼圧でも緑内障になることがあります。 長期にわたり眼圧の高い状態が続くと、視神経が障害され視力が低下しますので、眼圧が高いと言われたら、必ず眼科を受診して再検査や精密検査を受けましょう。 過去にレーシックの手術を受けた場合、眼圧の値が低くなることもあります。

## 血液一般検査

白血球	白血球は、細菌やウイルスから体を守る働きがあります。 低値：再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、薬物アレルギーなどが疑われます。 高値：細菌性感染、白血病などの疾患が疑われます。 また激しい運動、喫煙により数値が上昇することもあります。
赤血球 ヘモグロビン ヘマトクリット	赤血球は、身体の細胞に酸素を運ぶ役割があります。 ヘモグロビンは、赤血球に含まれるタンパク質や鉄からなるものです。 ヘマトクリットは、赤血球が血液中にどのくらいの割合で含まれているかを調べる検査です。 低値：体の組織への酸素や鉄分が不十分となり、貧血となります。 高値：多血症や血液の粘性が上がり血栓症の原因にもなります。そのほか脱水や喫煙により数値が上昇します。
MCV MCH MCHC	MCVは平均赤血球容積、MCHは赤血球1個当たりのヘモグロビンの量、MCHCは赤血球に占めるヘモグロビンの濃度で、それぞれの MCV、MCH、MCHC を併せて貧血の種類を判定します。種類は低色素性、小球性、高色素性、大球性、正常性などがあります。
血小板数	血小板は、血管が破れた時に、その部位を修復し出血を止める作用を担っています。 低値：白血病などの血液疾患や慢性の肝疾患などが疑われます。 高値：骨髄増殖性腫瘍といった悪性腫瘍や多血症が疑われます。
血清鉄	血清鉄は、赤血球のヘモグロビンの成分として使用され、酸素の運搬に寄与しています。

## 白血球像検査

好中球	好中球は、主として生体内に侵入してきた細菌類を飲み込んで殺菌を行い、感染を防ぐ役割を果たしています。 低値：ウイルス感染、再生不良性貧血などの疾患が疑われます。 高値：各種感染症や慢性骨髄性白血病などの疾患が疑われます。 ただし、ストレスによる一時的な上昇も考えられます。
好酸球	好酸球は主に、アレルギー抑制の働きをしています。 低値：コルチステロイドによる治療、クッシング症候群、悪性貧血などが疑われます。 高値：アレルギー性疾患（喘息、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎など）や寄生虫疾患が疑われます。
好塩基球	高値：慢性白血病、多血症などが疑われます。
単球	単球は、細菌などの異物を細胞内に取り込み、細胞内酵素を使って消化しています。 低値：悪性貧血や敗血症などの疾患が疑われます。 高値：膠原病、麻疹や風疹などの疾患が疑われます。
リンパ球	リンパ球には、ウイルス等の小さな物質から身を守るために免疫系で重要な役割を果たしています。 低値：低栄養、薬剤の副作用、自己免疫疾患、リンパ肉腫などが疑われます。 高値：ウイルス感染症、結核、百日咳、リンパ性白血病などが疑われます。

## 肝・胆・膵検査

総蛋白	総蛋白とは、血液中に含まれる様々なタンパク質のことをいいます。 低値：栄養不足、急性肝炎・肝硬変等の肝障害などが疑われます。 高値：肝硬変や悪性腫瘍、多発性骨髄腫などの疾患が疑われます。
アルブミン	アルブミンとは、総蛋白の中に一番多く含まれるタンパク質の総称をいいます。 低値：貧血、肝疾患や腎疾患などが疑われます。 高値：脱水症（あわせて尿素窒素、Na（ナトリウム）、Cl（クロール）も高値になることがある）が疑われます。
A/G 比	A/G 比とは、タンパク質（アルブミンとグロブリン）の構成を示したものです。 低値：肝疾患や膠原病などの診断の目安となります。 高値：腎疾患や免疫不全症などが疑われます。
総ビリルビン	総ビリルビンとは、赤血球中に含まれるヘモグロビンの分解産物で、胆汁に排出される色素です。直接ビリルビンと間接ビリルビンの合計をいいます。 数値が 2.0mg/dl 以上の場合、間接ビリルビンと直接ビリルビンの検査をお受けください。 間接ビリルビンの増加は、溶血性黄疸などが考えられます。
ALP	ALP とは、肝臓、胆嚢、骨、小腸に多く含まれる酵素です。 高値：肝胆道疾患（胆管炎や脂肪肝など）や甲状腺機能亢進症などの疾患が疑われます。
AST (GOT) ALT (GPT)	AST とは、肝、筋細胞内、赤血球内に多く含まれるトランスアミナーゼと呼ばれる酵素です。 高値：肝炎や心筋梗塞などで臓器が障害を受けている可能性があります。 ALT とは、体の構成物質であるアミノ酸の生成を触媒するトランスアミナーゼという酵素です。 高値：肝炎、肝硬変、アルコール性肝障害、脂肪肝などが疑われます。
$\gamma$ -GTP	$\gamma$ -GTP とは、タンパク質の分解や肝臓の解毒作用にかかわる重要な酵素です。 高値：肝炎、肝硬変、アルコール性肝障害、脂肪肝、薬剤性肝炎などや胆汁の働きが阻害された場合も高値を示します。
LDH	LDH とは乳酸脱水素酵素といい、心臓、腎臓、骨格筋に多く含まれます。 高値：肝疾患や心疾患、血液疾患等が疑われます。
血清アミラーゼ	アミラーゼとは、デンプンを分解する酵素のことをいいます。 高値：膵臓がん、急性膵炎、膵石、腎不全、唾液腺の異常などが疑われます。 低値：糖尿病、慢性膵炎などの疾患が疑われます。
コリンエステラーゼ	全身の血液中に含まれる酵素で、肝臓で生成され物質を代謝する働きがあります。 低値：肝硬変、肝炎、悪性腫瘍などが疑われます。 高値：糖尿病、脂肪肝、ネフローゼ症候群、甲状腺疾患などが疑われます。

## 糖代謝検査

空腹時血糖 (食後10時間以上)	血液中に含まれるブドウ糖の濃度のことをいいます。食事により血糖値は日内変動をしますが、高血糖状態が、数年から数十年続くと糖尿病になります。
随时血糖 (食後3.5時間以上 10時間未満)	高値：糖尿病や耐糖能異常、クッシング症候群、アルドステロン症、甲状腺疾患が疑われます。 低値：栄養失調、ホルモン異常（コルチゾール不足）、胃切除後、インスリノーマなどの膵臓疾患が疑われます。
HbA1c (ヘモグロビン エーワンシー)	HbA1cとは、ブドウ糖が赤血球色素であるヘモグロビンに結合した物質のことをいいます。 過去1～2ヶ月からの血糖の状態を反映しており、糖尿病の判定に有効な検査です。
尿糖	尿中に含まれている糖の量を測定する検査のことをいいます。 陽性を示している場合、糖尿病、甲状腺機能亢進症、腎障害などの疾患が疑われます。

## 脂質検査

総コレステロール	血液中の重要な脂肪で、細胞膜や血管壁の構成や副腎皮質ホルモンや性ホルモンを合成します。多すぎても少なすぎても体内に悪い影響を及ぼします。
HDLコレステロール	善玉コレステロールともいわれ、血管壁から余分なコレステロールを取り除く役割をします。このコレステロールが多くある人は、動脈硬化になりにくいといわれていますが、少ない場合は心筋梗塞や脳梗塞なるリスクが高くなります。また喫煙や運動不足などでも低値を示します。
中性脂肪	食事をすれば増加し、体を動かすエネルギーとなります。 低値：必要なエネルギーを補えないため、頭痛、めまい、冷え性などの症状を発症させます。 高値：過食、アルコールの摂り過ぎ、脂肪肝などが原因であることが多く、高い値を放置すると動脈硬化が進行し、脳梗塞や心筋梗塞になるリスクが高くなります。
LDLコレステロール	悪玉コレステロールともいわれ、比重の重いコレステロールのため血管壁などの末梢組織に蓄積しやすく、増加することにより血管内の狭窄や動脈硬化を引き起こし、心筋梗塞や脳梗塞などのリスクが高くなります。
non-HDLコレステロール	総コレステロールからHDLコレステロールを引いた値をnon-HDLコレステロールといいます。LDLコレステロール以外にも動脈硬化を促進するリポ蛋白があり、それらを評価するために検査項目に追加されました。

## 尿酸検査

尿酸	プリン体（細胞の核酸に含まれている）が、肝臓で代謝され最終産物としてできあがったものが尿酸です。尿酸は一定の量を維持して、尿などに排泄されます。 血液中で尿酸が多くなり結晶化したものが、関節に蓄積し痛みを発した状態が痛風発作です。 また尿酸は一種の老廃物ですので、高い値が長期的に続くと心筋梗塞、脳梗塞などの脳血管障害、腎機能障害を引き起します。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 腎機能検査

尿素窒素	血液中の尿素に含まれる窒素成分のことをいいます。高い値は、腎機能の低下が疑われます。		
クレアチニン	クレアチニンとはアミノ酸の代謝物質のことで、腎機能の状態を診断するのに有効です。 低値：妊娠や筋萎縮症などが考えられます。 高値：腎障害、心筋梗塞、高血圧、糖尿病、神経疾患などが疑われます。		
e-GFR	e-GFR（推算糸球体濾過量）とは、腎臓の糸球体で血液をろ過する能力を示しています。値が低いと腎臓機能が低下している状態です。		
Na(ナトリウム)	血液中に含まれる電解質で、水分調節や神経の伝達、筋肉の収縮、血液の凝固など多様な役割を果たしています。		
K(カリウム)	ナトリウム	高値：尿崩症、脱水など	低値：ネフローゼ症候群、腎不全、心不全など
CL(クロール)	カリウム	高値：腎不全、糖尿病など	低値：嘔吐、下痢など
Ca(カルシウム)	クロール	高値：脱水、下痢など	低値：嘔吐など
P(無機リン)	カルシウム	高値：副甲状腺機能亢進	低値：ビタミンD欠乏症、腎不全など
	無機リン	高値：副甲状腺機能低下	低値：ビタミンD欠乏症など

## 尿検査

尿 pH	尿 pH 検査とは、酸性かアルカリ性かを調べる検査のことをいいます。 低値（酸性）：糖尿病、痛風、腎炎などの疾患が疑われます。 高値（アルカリ性）：尿路感染症、過呼吸などの疾患が疑われます。		
尿比重	尿比重検査とは、尿中に溶けている物質の量から尿の比重を測定する検査のことをいいます。 低比重：尿崩症、腎不全、慢性腎孟腎炎、多量の水分摂取などでみられます。 高比重：糖尿病（多尿）、脱水症、心不全、熱性疾患の場合にみられます。		
尿蛋白	尿中に含まれているタンパク質の量を測定する検査のことをいいます。 陽性を示している場合、腎臓の糸球体や尿細管に障害が起きている可能性があります。		
尿ウロビリノーゲン	ビリルビンが腸内細菌によって変化した物質のことをいいます。 陽性：肝障害や溶血性疾患などが疑われます。 陰性：胆道閉塞や肝障害などの疾患が疑われます。		
尿潜血	尿の中に血液が混じっていないかを調べる検査のことをいいます。肉眼的な血尿では尿は赤く見えますが、尿が赤くなくても試験紙を使って赤血球の有無を調べる検査です。 陽性：腎、尿管、膀胱からの出血や感染症、激しい運動後、遊走腎などでみられます。		
尿沈渣 ・赤血球 ・白血球 ・扁平上皮 ・細菌	尿を遠心分離機にかけて、沈殿した血球、細胞、円柱、結晶、細菌などの固有成分の量を調べ腎臓や尿路系の病気を種類や部位を推測する検査です。		

## 便検査

便潜血	便の中に血液が混じっているかどうかを調べる検査です。 陽性：大腸ポリープ、大腸がん、潰瘍性大腸炎、炎症性腸炎、痔などの疾患が疑われます。 必ず大腸内視鏡検査を受けましょう。
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------

## 血清免疫検査

CRP 定量	C 反応性タンパク質と呼ばれる、体内で炎症反応や組織の破壊が起きているときに出現するタンパク質のことをいいます。炎症が強いほど値が高くなります。
抗 CCP 抗体	抗 CCP 抗体は関節リウマチに対し感度と特異性が高いとされている検査です。リウマチ以外の疾患で陽性になることはあまりないので、関節リウマチの診断に役立ちます。
リウマトイド因子 (RF) 定量	リウマトイド因子 (RF) 定量とは、抗 CCP 抗体の前に関節リウマチを診断するために使用されていた検査です。関節リウマチ以外の他の膠原病などの疾患でも陽性を示すことがあります。

## 感染症検査

HBs 抗原 HBs 抗体 HBe 抗体定性	B 型肝炎ウイルスの感染の有無を調べる検査です。
HCV 抗体定性	C 型肝炎ウイルスの感染の有無を調べる検査です。
TPHA RPR	梅毒の検査です。下記の組み合わせで診断や再検査を実施します。 TPHA(-):RPR(-) ①梅毒陰性 ②梅毒極初期感染 TPHA(+):RPR(-) ①梅毒治療後 ②TPHA偽陽性(膠原病、マラリア・EBウイルス感染など) TPHA(-):RPR(+) ①RPR偽陽性(妊娠、膠原病、水痘・麻疹感染など) ②梅毒感染初期 TPHA(+):RPR(+) ①梅毒感染中 ②梅毒治療中 ③両方とも偽陽性

## 肺機能検査

実測肺活量	肺野の能力を調べる検査です。 肺の中にいっぱい空気を吸った状態から全部吐き出した時の気量です。
予測性肺活量	性別、年齢、身長から計算した肺活量の基準値です。
% 肺活量	予測肺活量を 100% としたときの、実測肺活量を % で計算したものです。 低値：肺結核や肺線維症といった拘束性肺機能障害等の疾患が疑われます。
努力性肺活量	肺の中にいっぱい空気を吸った状態から一気に全部吐き出した時の気量です。
一秒量	最初の 1 秒間に吐き出した気量を計算したものです。
一秒率	最初の 1 秒間に全体の何%を吐き出したかを計算したものです。 低値:COPD、気管支喘息、気管支拡張症など閉塞性肺機能障害等の疾患が疑われます。

## 眼底検査

### 眼底写真

眼底とは、眼の奥にある網膜や血管、視神経の集まっている部分で、これを撮影し異常を見つけます。また、網膜の血管から動脈硬化などの状態をチェックしています。自覚症状がわかりにくいため、所見がある場合は必ず眼科を受診しましょう。

## 心臓検査

### 心電図

心臓が発する電気的刺激の波形を記録して、心臓機能や循環器疾患を調べる検査です。

### 心臓超音波

心臓に超音波をあてて、心臓の状態をより詳しく調べる検査です。

### 心拍数

1分間に心臓が拍動する回数です。頻脈=120回/分以上 徐脈=60回/分未満

### 心不全検査 (NT-proBNP)

NT-proBNPとは心臓から分泌されるホルモンの一種で、心臓の機能が低下して心臓への負担が大きくなるほど血液中に多く分泌され、数値が高くなります。心電図に現れていない心不全の危険度を知る目安となります。

## 胸部検査

### 胸部X線

肺や心臓、縦隔などの器官に関する疾患について調べる検査です。

### 肺CT

胸部を断層撮影して、胸部X線をより詳細に調べる検査です。

## 胃部検査

### 胃部検査

胃部検査には、胃バリウム検査と胃内視鏡検査があります。胃バリウム検査は、食道・胃・十二指腸の全体形状から異常を見つけていく検査です。特にスクリュース胃がん（進行がんで粘膜に変化が起こりにくいがん）などに有用な検査です。胃内視鏡検査は、粘膜を直接観察して早期胃がんの発見に有用性があります。

### ヘリコバクター ピロリ IgG抗体

ピロリ菌とは、動物の胃などに生息するらせん型の細菌のことをいいます。ピロリ菌陽性の場合：胃がんに罹患するリスクが高くなります。また潰瘍の原因にもなります。この検査はピロリ菌抗体を調べる検査ですので、ピロリ除菌後に検査をしても、しばらく陽性になることがありますので、治療した医療機関で尿素呼気試験を受けて、除菌が完了しているかを確認しましょう。

### ペプシノゲン 判定

ペプシノゲン検査とは、胃粘膜の萎縮病変を調べる検査です。萎縮の程度により、老化によるものなのか、ピロリ菌による進行性萎縮なのかをスクリーニングします。胃切除、腎不全、ピロリ除菌後、胃の治療している方は、この検査は適しません。

## 腹部超音波検査

### 腹部超音波

腹部に超音波をあてることにより、腹部内部にある臓器（肝臓・胆嚢・脾臓・脾臓、腎臓、腹部大動脈）などの状態を調べる検査です。

肝臓：脂肪肝、肝血管腫、肝囊胞、肝腫瘍など  
 胆嚢：胆石、胆囊ポリープ、胆囊腺筋腫症、総胆管拡張、胆砂、胆泥、胆囊腫瘍など  
 脾臓：脾囊胞、脾管拡張、脾石、脾腫瘍など  
 脾臓：副脾、脾腫、脾囊胞、脾梗塞、脾腫瘍など  
 腎臓：腎結石、腎石灰化、腎囊胞、腎血管筋脂肪腫、腎孟拡張、腎腫大、腎萎縮、腎腫瘍など  
 腹部大動脈：腹部大動脈石灰化病変、腹部大動脈プラーク、腹部大動脈瘤など

## 脳・頸動脈検査

### MRI（頭部）

磁場と電波を用いて撮影する核磁気共鳴装置検査で、脳内の異常を見つけます。  
 脳腫瘍、脳出血、脳梗塞、くも膜囊胞、脳萎縮、副鼻腔炎、脳虚血性変化など

### MRA

MR Iを用いて頭部の血管の様子を詳しく立体画像化して調べる検査のことをいいます。  
 MRA検査では、脳動脈瘤、脳動脈狭窄などの疾患を調べることができます。

### 頸動脈超音波

脳へ血液を送る首の頸動脈に超音波をあてて調べる検査です。  
 血管を容易かつ詳細にチェックでき、動脈硬化の早期発見や進行具合がわかります。  
 動脈硬化が進むと、血管壁が厚くなり血管の内側にはプラーク（脂肪などの線維）が付着して血管内が狭窄します。プラークが剥がれ落ちると血栓となり、脳塞栓などを引き起こします。

## レディース検査

### 子宮内診

医師が触診で、下腹部（子宮腫大など）のしこりなどの有無を調べる検査です。

### 子宮細胞診（頸部）

子宮頸部の細胞を擦り取って採取し、顕微鏡で観察し細胞の異形成の有無を調べます。  
 主として子宮頸がんの早期発見に役立ちます。

### 子宮超音波

経膣超音波を用いて、子宮の形や卵巣の状態を画像化して疾患を発見する検査です。

### HPV-DNA

子宮頸がんの原因とされている、HPV（ヒトパピローマウイルス）感染の有無を調べる検査です。  
 高リスク型(16,18,31,33,35,39,45,51,52,56,58,59,66,68)の14種類を検査しています。

### 培養（細菌・原虫）

子宮頸管部の分泌物を採取して、クラミジア抗原、淋菌、カンジダ、トリコモナス原虫の有無を調べる検査です。

### マンモグラフィ

乳房のX線検査で、乳房を平らにして撮影し、乳房内部の状態をより鮮明に映し出します。また高濃度乳腺の場合は、診断が容易ではないため、乳腺超音波と合わせて検査することをお勧めします。豊胸手術をされている方は、検査が出来ませんのでご了承ください。

### 乳腺超音波

超音波の反射波を利用して乳腺の状態を調べる検査です。  
 しこりの形状や腫瘍の有無などを表出しやすい検査です。

### 子宮卵巣MRI(SMR 柏の葉)

磁場と電波を用いて撮影する核磁気共鳴装置検査で、骨盤内にある子宮、卵巣の異常を見つけます。子宮の形などを3次元的に再現して、腫瘍などの部位が特定しやすい検査です。

## 前立腺検査

前立腺超音波	男性の生殖器である前立腺の状態を超音波によって調べる検査です。前立腺肥大症、前立腺がんといった疾患を発見することができます。
PSA	PSA とは、前立腺の上皮細胞から分泌されるタンパクで、前立腺の組織に傷がつくと血液中に漏れ出して上昇します。初期の段階で疾患を発見できる検査です。 高値：前立腺がん、前立腺肥大症、前立腺炎など

## 甲状腺検査

甲状腺超音波	頸部にある甲状腺に超音波を用いて、甲状腺がんなどの甲状腺疾患を発見する検査です。
FT3	FT3、FT4、TSH とは、甲状腺の遊離型ホルモンのことです。
FT4	血液検査でホルモン値を測定し、バセドウホルモン病などの疾患を発見することができます。
TSH	

## 大腸3D CT検査

大腸3D CT (SMR 八千代) (江東メディカルタワー)	内視鏡を使用しない、大腸検査です。 炭酸ガスで大腸を拡張させ、CT 装置で撮影します。これを 3 次元画像にて大腸の疾患を発見する検査です。
--------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------

## アレルギー検査

非特異的 IgE	アレルギー体質の程度（強さ）を調べる検査です。
特異的 IgE	特定の項目から（スギ、ハウスダスト、卵など）アレルギー体質の程度（強さ）を調べる検査です。

## 腫瘍マーカー検査(スクリーニング検査)

CEA	消化器組織にあるタンパク質の一種で、胃・大腸がん等では高値となります。他に肝硬変、慢性肝炎、胃潰瘍、腎不全などや大量の喫煙や糖尿病でも高値となります。
AFP	肝細胞がんで高値を示すことが多いですが、慢性肝炎・劇症肝炎、肝硬変などでも上昇することがあります。
CA19-9	膵臓がんに特性を示すマーカーです。超音波検査で膵臓の検査をしても見えづらいことが多いため（腸内ガスや内臓脂肪が多い場合）組み合わせれば診断率の向上が望めます。その他、胆道がん、卵巣がん、前立腺がん等でも高値を示すことがあります。
CYFRA (シフラ)	肺がん（特に扁平上皮がん）などで高値になります。 その他の腺がん、大細胞がんなどの非小細胞がんでも上昇することがあります。
CA125	卵巣がんにおいて比較的特異的に高値を示す腫瘍マーカーです。子宮内膜症や卵巣嚢腫でも値が高くなることがあります。また妊娠や月経で数値が上がる場合もあるので、検査をする時期に注意してください。

## その他の検査

喀痰細胞診	肺がん検査の一つで、顕微鏡を用いて痰に含まれる肺の細胞を調べます。
骨塩定量検査	一定の体積あたりの骨量を調べる検査です。骨密度検査ともいいます。 骨粗しょう症などの疾患を発見することができます。
内臓脂肪検査	内臓脂肪とは、腹筋の下にある腹腔内に付いている脂肪のことです。内臓脂肪が増加すると、生活習慣病や心筋梗塞、脳梗塞などを引き起こす要因となることが報告されています。
アディポネクチン	アディポネクチンとは脂肪細胞から分泌される善玉アディポサイトカインの一つで、適度な脂肪に多く存在します。内臓脂肪の蓄積により、アディポネクチンが減少し悪玉アディポサイトカインが増えると、動脈硬化が進行して心筋梗塞や脳卒中、糖尿病などになるリスクが高くなります。
ASO 検査	ASO とは溶連菌（A群β型溶血性連鎖球菌）が作り出す毒素を中和する働きを持つ抗体です。 溶連菌に感染しているか否かをチェックするスクリーニング検査です。 また猩紅熱、急性糸球体腎炎、リウマチ熱、血管性紫斑病、扁桃炎などでも高値を示します。
血沈検査	赤血球が試験管内を沈んでいく速度（沈降速度）を調べる検査です。赤血球組織は様々な疾患に対して反応するため、沈降速度のみで疾患を特定することはできませんが、沈降速度から「炎症の進行具合」などを把握することができます。
血圧脈波	血管の硬さと詰まりを測定することで動脈硬化のリスクを測る検査のことをいいます。 動脈硬化の進行度が分かり、放置すると狭心症、心筋梗塞、脳血管障害、下肢の壊死等につながる可能性があります。
ロックスインデックス	動脈硬化の進行から、脳梗塞、心筋梗塞の発症リスクを評価する指標検査です。